４．セッション ２

地域連携歯科医療教育について

（連携大学の活動報告）

１．北海道医療大学　越野 教授

２．岩手医科大学　城 教授

３．昭和大学　弘中 教授

1. 地域連携歯科医療教育について　北海道医療大学

北海道医療大学における多職種連携教育

北海道医療大学歯学部
越野　寿

平成26年3月27日　　大学関連系連携事業WS

北海道医療大学

- 北海道石狩郡当別町
  札幌市のベッドタウン
  札幌市から北東にJRで約45分
  人口　約18,000人
  田園地帯・豪雪地帯
- 当別キャンパス
  （薬学部・歯学部・看護福祉学部・リハビリテーション科学部）
  札幌あいの里キャンパス
  （心理科学部）
- 臨床実習の場　歯科内科クリニック（当別キャンパス）
  大学病院（札幌あいの里キャンパス）

「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」第一次報告～確かな臨床能力を備えた歯科医師養成方策～（平成21年1月）

①歯科医師として必要な臨床能力の確保

②優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施

③歯科医師の社会的需要を見据えた優れた入学者の確保

④未来の歯科医療を拓く研究者の養成

①に関して

平成22年度　歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告を踏まえたフォローアップ調査

＜所見＞
臨床実習の改善努力は行われているものの、地理的問題、患者数の問題から診療参加型臨床実習が困難な状況にあるものと思われる。補完教育としてシミュレーター実習を充実させているが、診療参加型臨床実習の早急な充実による臨床能力の確保に対する対応策が必要である。
（今後改善すべき事項）
・診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること。

平成24年度　フォローアップ調査

（改善状況）
診療参加型臨床実習の充実のため、歯科内科クリニックの活用、臨床実習手帳の充実、シミュレーション実習による補完などに取り組んでおり、改善努力は認められるものの、地理的問題や患者数の問題から、患者数の絶対数が不足しており、自験症例数の増加は限定的である。
（指摘事項）
・診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること。

北海道医療大学での診療参加型臨床実習推進のための取組み

・患者数不足を補い、学生の臨床技能を向上させるためには、臨床実習の量・質の充実が必要

① 実習時間の延長（量）
② 細切れ実習から連続実習へ（量）
③ シミュレーション実習・相互実習による診療参加型臨床実習への円滑な移行（質）
④ 同意書整備（量）
⑤ 患者配当制（量）
⑥ 講座配属制（質）
⑦ 学外医療機関実習（量・質）
⑧ 多職種連携教育（質）
⑨ 福祉施設実習（質）
⑩ 訪問診療実習（量・質）

実習時間の延長

平成24年度　臨床実習
第5学年6月～第6学年5月　12か月

約1.2倍

平成25年度　臨床実習
第5学年4月～第6学年5月　14か月

実際には、実習時間延長、休暇短縮　によって

1,500　時間

約1.6倍

2,400　時間

学外医療機関実習

・大学だけではなく、一般開業医における総合的な歯科治療の流れを把握する。

・地域で活躍する優れた歯科医師から指導を受けることによって、医療人としての視野を広げる。

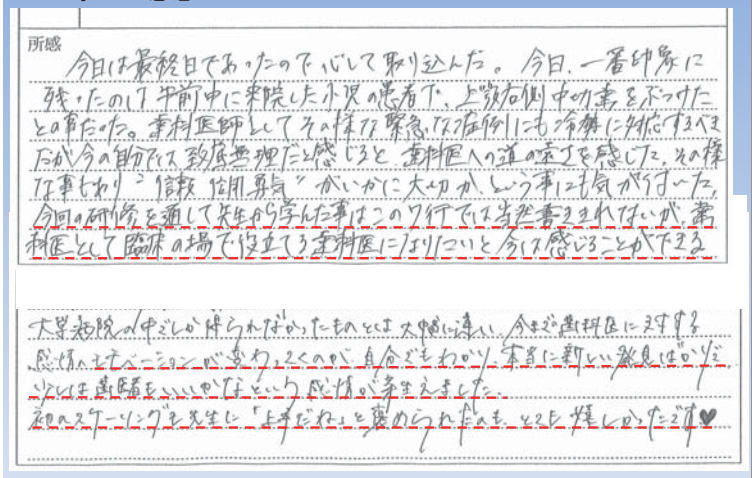
・総合的歯科医療の実践によりさまざまな場面でのコミュニケーション能力を高める。

平成25年度　　臨床教授　7名

臨床准教授　8名

4月24日　学外医療機関実習FD研修会

学生の感想


所感

今日は最終日であったので心して取り込んだ。今日、一番印象に残ったのは午前中に来院した小児の患者で、上顎右側中切歯を不正咬合とのことだった。歯科医師としてその様な緊急な症例にも冷静に対応するべきだが今の自分では到底無理だと感じると歯科医への道の遠さを感じた。その様な事もあり"信頼信用第一"がいかに大切かという事に気が付いた。今回の研修を通して先生から学んだ事はこの7行では当然書きされないが、歯科医として臨床の場で役立てる歯科医になりたいと今改めて感じることができる。

大学病院の中だけが世の中ではなかったものとは大きく違い、今まで歯科医に対する感情のイメージョンが変わったのが自分でもわかり、本当に新しい発見ばかりで少しは緊張もしないかなという甘い考えでした。

初めのスケーリングを先生に「上手だね」と褒められたのも、とても嬉しかったです♥

大学で学べないことがたくさん学べた
一般開業医の様々なやり方(患者のさばき方、消毒・滅菌方法)が勉強になった
もう少し出来ることが増えてから行きたかった
大学で臨床実習をきちんとしている人としてない人との差が大きいと思った
もっと積極的に自験すればよかった
自分の将来像が明確に理解できた気がする
実際の臨床現場を見て、勉強のモチベーションもあがった

患者にたくさん接することが出来た
人間としてのマナーなどを医院長に教えてもらった
開業医での治療や器具の使い方の違いを知ることができた
他の歯科医院も見学してみたかった
大学ではあまり出来ない体験ができた
短期間でも症例が色々と見れたのでよかった

(要望)
内回り実習をやってから学外研修に行きたかった
学外研修の期間を延長してほしい
学外研修の行き先をもう少し早く発表してほしい
場所が遠く交通費が結構かかった
学外研修でもっと色々なところをローテーションすればいいと思った
大学内での臨床実習を行ってから行きたかった

多職種連携教育

4学部(薬学部・看護福祉学部・心理科学部・リハビリテーション科学部)との連携講義・実習

看護福祉概論　(第1学年、看護福祉学部との連携)
医療人間学演習(第1学年、介護老人福祉施設での早期体験実習)

医療薬学概論(第2学年、薬学部との連携)

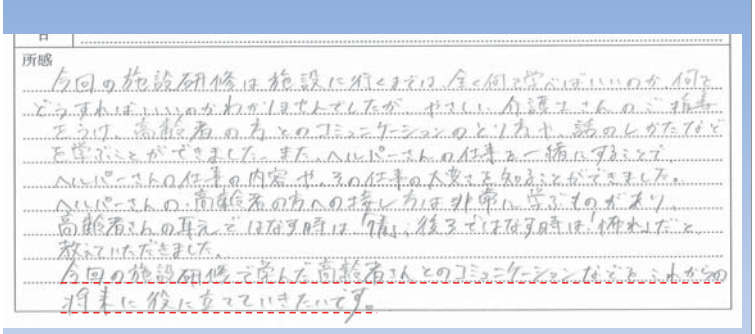
人体運動科学
(平成26年度から第3学年に開講予定、リハビリテーション科学部との連携)

医療行動科学
(平成27年度から第4学年に開講予定、心理科学部との連携)

福祉施設実習

- 第1学年「医療人間学演習」において、歯科医師を目指す学生として患者・ 家族という人間を理解し、さらに自分自身を問うことで、ひとりの人間として「人間」について学ぶことを目的として、福祉施設での研修を行った。
- 老人施設、障害者施設、リハビリテーション施設での体験を通して、学生がどのような人間関係を形成し、そのなかで自らの役割をどのように考察するかを学生に問いかけた。
- その結果、歯学に対する学習意欲の向上、人格を高める態度の涵養、自主的学習意欲、行動力の涵養、患者ー歯科医師の信頼関係の重要性の認識、保健・医療・福祉の有機的連携の理解など、学生にとって有意義な研修となった。

- 第5学年「臨床実習」では、福祉施設において、高齢者・要介護者の「生活モデル」を理解し、臨床実習生(歯科医師)として何ができるのか、歯科診療上の留意点は何かなど、要介護者の安全な診療のために必要な知識・態度・技能を習得することを目的としている。また、歯科医師と介護スタッフとの連携の重要性を理解し、さらにコミュニケーション能力を高めることを目的とする。


所感

今回の施設研修は施設に行くまえに今何が必要かいいのか何をどうすればいいのかわからないままでしたが やさしい介護士さんのご指導のもと、高齢者の方とのコミュニケーションのとり方や話のしかたなどを学ぶことができました。また、ヘルパーさんの仕事を一緒にすることでヘルパーさんの仕事の内容やその仕事の大変さを知ることができました。ヘルパーさんの高齢者の方への接し方は非常に学ぶものがあり、高齢者さんの耳元ではなす時は「右」「後ろ」ではなすときは「体ごと」と教えていただきました。

今回の施設研修で学んだ高齢者さんとのコミュニケーションなどを今からの将来に役にたてていきたいです。

地域支援医療科　訪問診療実習

訪問診療において、診療チームの一員として診療に参加し、要介護者を安全に診療するための知識・技能・態度を修得することを目的としている。

・ 要介護者の診療介助
・ 口腔ケアの実施
・ その他、簡単な処置の実施

保存・補綴実習期間に実施。
患者数は1日約5～10名
帰院後にレポートを提出し、指導医から評価をもらう。

学生の変化

- 昨年度と比べて、積極的に診療に参加しようとする意欲と態度が認められる。
- 実習後のレポートの記載内容がより具体的になり、考察内容には実際の失敗談から自己問題解決能力を示す内容の記載が増え、文章も昨年と比較して質が向上している。
- 学生が学習目標をしっかりと認識しながら実習を進めている様子が認められる。
- 診療チームの一員であるという自覚が感じられる。
- 色々な実習を組み込んでいるので、楽しんでいる様子。
- 講座配属制になったので、教員とのディスカッションやコミュニケーションをとる時間が増え、教員に質問しやすくなった。
- 配属学生以外の学生も医局を訪問しやすくなった。
- 診療参加型臨床実習前のシミュレーション実習、相互実習に対する真剣みが増した。

ITを活用した教育センターWS

地域連携歯科医療教育について
岩手医科大学歯学部

平成26年3月27日（木）

岩手医科大学歯学部
口腔顎顔面再建学講座
歯科麻酔学分野
城　茂治

岩手医科大学歯学部における

学外連携教育プログラム

1.看護・介護体験実習（1年）
2.歯科専門体験実習（2年）
3.先端歯科医学・医療施設見学実習（3年）
4.介護体験実習（5年）
5.地域医療体験実習（5年）
6.高次臨床実習（5年）

1.看護・介護体験実習（1年）

- 一般目標
  実習を通じて全人的医療とその意義について理解する。
- 月～金までの5日間附属病院医科7病棟と盛岡市内近郊の17施設で実施
- 目標はどの程度達成できましたか。
  A.達成できた　22%
  B.ほぼ達成できた　43%
  C.達成できなかった　10%



達成できなかった理由

A. 目標である医師，歯科医師、看護師によるチーム医療を知る上で、カンファレンスに同席し、実際に見て体験しそれぞれの重要な役割を知ることができた。
B. 最初は余り患者さんとコミュニケーションをとることができなかったが、3日目からは患者さんとも話ができるようになった。
C. 言われたことはほぼやることができたが、自ら進んで仕事を探すことができなかった。

2.歯科専門体験実習（2年）

- 一般目標（講義）
  本学附属病院歯科医療センターおよび開業歯科医院での歯科医療の現場を通してチーム医療の一員としての歯科医師の果たすべき役割ととるべき態度を学ぶと共に、歯科医療の概要を理解する。また、歯科医療への基礎分野研究が果たす役割について理解する。

- 到達目標

1.自己紹介ができる。
2.担当歯科医師（院長）・スタッフとコミュニケーションがとれる。
3.担当歯科医師（院長）・スタッフ・患者に挨拶ができる。
4.担当歯科医師（院長）・スタッフの指導のもとに患者に応対できる。
5.治療前の準備について説明できる。
6.治療中の患者様への配慮ができる。
7.治療後の患者様への配慮ができる。
8.各業種の仕事の役割を説明できる。
9.各種治療の流れを説明できる。
10.治療用機器の名称を列挙できる。

3.先端歯科医学・医療施設見学実習（3年）

- 一般目標
  ―サイクロトロンセンター・高磁場MRI研究施設見学を通じて先進的歯科医療とその意義について理解する。

- 先進的歯科医療教育としては，第2学年統合講義「抗加齢と再生医学」および第2学年「歯科専門体験実習」に含まれている基礎歯科医学講座での学内体験実習と連携させ，サイエンスとしての歯学研究についての学生の理解を深める。

4.介護体験実習（5年）

- 一般目標
  第1学年とともに実習を行うことにより，全人的医療およびチーム医療とその意義について理解する。

- 盛岡市近郊の15施設で2日間の実習
- 1年生と同時期に設定し、指導的役割をする。

5.地域医療体験実習（5年）

- 一般目標
  岩手県内他の各地区診療所において地域歯科医療を体験実習することにより，地域歯科医療の役割とその意義について理解する。

- 岩手県内13カ所の国保診療所、秋田県厚生連病院歯科1カ所において1～2日間の実習を行う。

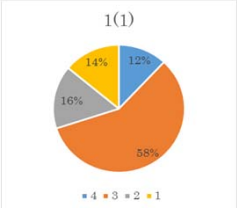




地域医療体験実習は有意義でしたか？　実習全体の感想を聞かせて下さい。

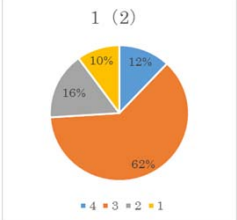
1）実習は有意義でしたか？

4　大変有意義だった　　3　有意義だった
2　有意義でなかった　　1　全く有意義でなかった



2）実習は楽しくできましたか？

4　大変楽しかった　　3　楽しかった
2　楽しくなかった　　1　全く楽しくなかった



3． 地域連携歯科医療教育について 昭和大学

第4回ITを活用した教育センターワークショップ

昭和大学歯学部における地域連携歯科医療教育について

歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座
口腔衛生学部門
弘中祥司

学部間連携教育から地域連携教育へ

* これまで医療系総合大学の利点を生かして、医療系職種の連携を重点に本学のカリキュラムを構成してきた。
* 超高齢者の未来を鑑み、地域歯科医師会との連携をさらに強化する上でも、地域で高齢者を診る体制つくりが課題となっている。
* ITのWSを通じて、現在1年次、3年次、4年次と現在進行形である。

学部連携病棟実習風景



月曜日

自己紹介と1週間のスケジュール説明



病棟担当医師・看護師受け持ち患者の紹介



薬局・リハビリなど関連する学部職種への挨拶と1週間のスケジュール確認





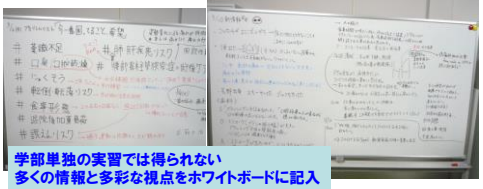
毎 日



朝のミーティング（朝8時から）
一日のスケジュールを検討

夕方のミーティング・空き時間
記録作りと患者情報の共有・整理
治療・ケアのプランを検討





学部単独の実習では得られない
多くの情報と多彩な視点をホワイトボードに記入

歯学部生の診察の見学



患者さんとの面談2(～3)名で



歯学部生は患者さんの歯の状態の模型を作成

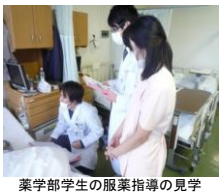






歯学部生は患者さんの歯の状態の模型を作成

医学部生の診察の見学



薬学部学生の服薬指導の見学



リハビリテーションの見学



看護学生のバイタル測定やケアの見学



回診に同行し、情報を共有



病院で多職種で行われ
ているケース検討会に
も参加しました



時間内は医学部スケジュールに従っての行動になります。
このカンファレンスも実際は医学部の学生
が他に7人入ったとすると部屋は一杯です
実習は医学部実習生に足して行うことになります
病棟指導担当医師の調整指導・各部署スタッフの方の
調整・指導が実習成功のポイントになります。









VTR

初年次歯科医院体験実習



歯科医院で挨拶する1年生



今後は地域で診る高齢者の歯科医療が主役と考える

地域歯科医師会との連携がこれから近未来の
歯科医学教育のKeyとなることは確かだと
見据えている。

ワーキンググループ１

地域連携歯科医療教育について　印象記（グループ 1）

昭和大学　歯学部
高齢者歯科学講座　佐藤　裕二

3 大学から，地域連携歯科医療教育に関して報告が行われました。

【北海道医療大学　越野寿教授】

臨床実習の期間を 1 年から 1.2 年に延長し，時間数でいえば 1.6 倍ぐらいに充実されたそうです。この中で，地域連携歯科医療教育の充実も図られており，学外の 15 機関に月曜日から金曜日の連続 4 日間派遣し，臨床実習をされています。

訪問診療に関しては，専任 2 名＋兼任 1 名で，最低半日，施設や居宅で出かける実習をされています。

とても充実した実習を行われていることに感心しました。

【岩手医科大学　城教授】

IT を活用した教育を先行されており，これらの効果を踏まえて，学外での地域連携歯科医療教育の準備をされているそうでした。

「看護・介護体験実習」「歯科専門体験実習」「先端歯科医学・医療施設見学実習」「介護体験実習」「地域医療体験実習」など様々な実習を行われていました。訪問診療に関しても検討中とのことでした。精力的な取り組みに感銘を受けました。

【昭和大学　弘中教授】

1 年次の富士吉田近隣歯科医師会との連携と，3 年次・5 年次の旗の台近隣歯科医師会との連携が紹介されました。今年度からは，臨床実習に半日ではあるものの，訪問診療を取り入れることも追加で紹介されました。

各大学の取り組みや，問題点も質疑応答で討議され，おおいに刺激を受けました。今後の成果と点検評価が期待されました。

ワーキンググループ２

地域連携歯科医療教育について　印象記（グループ２）

昭和大学　歯学部
歯周病学講座　須田　玲子

1．北海道医療大学

（1）学外医療機関での臨床実習：近隣の 15 開業医に協力を求め、月～木の 4 日間の学外実習を行っている。地域医療で活躍している開業医と直接触れ合え良い刺激を受けている。

（2）多職種連携教育

（3）福祉施設実習：低学年と 5 年生で行っている。

（4）訪問歯科診療実習：保存・補綴自習期間に最低半日単位で1回実施。基本は介護施設に出向いて実習を行っている。

以上、地域の開業医や介護施設などの実習を通じ、外来での学生の実習態度が向上した。

2．岩手医科大学

（1）看護・介護体験実習（1年）：2週間（月～金）に附属病院7病棟および盛岡近郊 17 施設で実施。施設の人とコミュニケーションを取る事を目的としている。

（2）歯科専門体験実習(2 年)：盛岡近郊の開業医に 2 日間、大学病院に 2 日間見学実習を行っている。

（3）先端歯科・医療施設見学(3 年)

（4）介護体験（5 年）：1 年生と共に出向き、5 年生が 1 年生を指導する。
口腔ケアを中心に 15 施設で 2 日間行っている。

（5）地域医療体験実習（5 年）：岩手県 13 か所の国保診療所、秋田県厚生連病院歯科 1 か所に1～2 日間。

アンケート結果により 75％の学生は有意義と感じている。

3．昭和大学

（1）歯科医院の見学実習（1 年）：山梨県の開業医の協力の元、見学実習を行っている。

（2）介護施設での口腔ケア体験（2 年）：半日を 2 日間の実施。

（3）障害時施設での実習(3 年)

（4）学部連携実習、学部連携病棟実習（4，5 年）：4 学部の学生が合同で全身管理と医療連携について学んでいる。

平成 26 年度から、3 年、5 年生で近隣歯科医師会の協力の元、診療所の見学実習を行う予定である。また、5 年次に半日施設における訪問歯科診療の体験実習を行う。

3 大学共にそれぞれの地域性を活かした地域連携歯科臨床教育を行っていた。

ワーキンググループ３

地域連携歯科医療教育について　印象記（グループ３）

岩手医科大学　歯学部
口腔医学講座 予防歯科学分野　岸　光男

北海道医療大学、越野さん、岩手医科大学、城さん、昭和大学、弘中さんから各大学における地域連携歯科医療教育の現状について、報告がされ、各報告の後質疑がなされた。

1．北海道医療大学

【現　状】

臨床実習の医管として、学外医療機関における訪問実習を実施している。また、現在 15 歯科診療所の協力を得ており、それら診療所には学生が訪問実習を行うことに関するお願いと臨床教授委嘱状が掲示されている。主に見学実習となるが、患者とのコミュニケーション教育に役立っている。

【質　疑】

問：居宅訪問のスケジュール調整が困難と思われるが、どのように調整しているのか。

答：半日単位で実習中の任意の日を学生から申し込ませたうえで調整している。臨床実習期間中１回は居宅訪問を行うよう指導している。学生もケースがこなせるため積極的に申し込んでいる。

2．岩手医科大学

【現　状】

学外連携教育プログラムとして、1年次に看護・介護体験実習、2年次に歯科専門体験実習、3年次に先端医療体験実習、5 年次の臨床実習期間中に介護体験、地域歯科医療体験実習を実施している。実習は岩手医科大学附属病院、歯科医療センターサイクロトロンセンター、MRI 研究所、学外連携病院、福祉施設、歯科診療で行っている。また、地域歯科診療所での実習について、受け入れてくれた歯科診療所に対して県の歯科医師会を通じてアンケート調査を実施したところ、「自分たちにとっても勉強になり、役だった。」、「学生が積極的で楽しかった」などの感想があった。

【質　疑】

意見：歯科医師会の会員がそのような感想を持っていることを知り、このような事業に参加していることの励みになった（開業医側からの意見として下山さんから）

3．昭和大学

【現　状】

地域連携歯科医療教育プログラムとして、1 年次に学部連携 PBL、歯科医院実習（富士吉田キャンパス）、2 年次に介護施設実習、3 年次に障害者施設実習、4 年次に模擬患者を用いた学部連携 PBL、5 年次に病棟実習、6 年次に地域連携実習（選択実習）を行っている。富士吉田キャンパス付近の開業医は診療所の敷地が広く、余裕があるところが多く、学生が訪問しやすい環境である。一方、交通手段の確保が大変で、タクシー移動などの経費がかかる。

【質　疑】

問：北海道医療大学と岩手医科大学への質問として、連携歯科診療所はすべて歯科医師会の会員か、という質問があった。

答：岩手医科大学は岩手県歯科医師会を通じて依頼しているので、すべて県歯科医師会の会員だと思われる。北海道医療大学は、同窓会を経由して依頼しているので概ね歯科医師会員だとは思うが、詳細は不明である。

ワーキンググループ４

地域連携歯科医療教育について　印象記（グループ４）

岩手医科大学　歯学部
歯科保存学講座 歯周療法学分野　須和部　京介

北海道医療大学の地域連携歯科医療実施状況について、越野先生より報告があった。地域連携歯科医療は現在 5 年生の臨床実習の中で実施しているとのことだった。学外医療機関実習では、15 の開業歯科医院（臨床教授 7 名、臨床准教授8名の体制）にて実習し、学生は大学での縦割りの専門診療科での実習との違いを実感し、総合的な歯科診療を学べているとのことだった。4 日間の実習で、指導側・学生側ともに充実しているようで、実習最終日には指導側の施設で自発的に食事会開催もされ、好評の実習であるとの報告だった。学生側からは大学で学べないことが学べたとの良い感想がある一方、施設によっては実習の往復に際し交通の便悪い施設もあったとの感想も挙げられた。多職種連携教育として、歯学部・薬学部・看護福祉学部・心理科学部・リハビリテーション学部と連携講義・実習も行っているとのお話もあった。また、地域支援医療科の実習として、一日 5～10 名程度の患者を対象に訪問診療実習も実施している。実習導入してから、学生の臨床実習へのやる気が向上したように感じているとの報告があり、非常に有益な実習をしていると感じられた。質疑応答として、「臨床実習でどれぐらいの回数訪問診療へ行っているのか？（佐藤先生）」との質問があり、「居宅だと一度に訪問できるスタッフの人数が 4 人（学生 2 名、歯科医師、衛生士各 1 名）が限界なため、最低半日単位で1回以上参加してもらうことになっている。（越野先生）」との回答があった。

岩手医科大学の地域連携歯科医療実施状況については、城先生より報告があった。岩手医科大学では、学外連携教育プログラムとして、1 年生で看護・介護体験実習を行っている。これは5 日間附属病院医科病棟と市内近郊 17 施設において、施設の方とのコミュニケーションをとることを目標に実習しているとのことだった。学生にそれぞれに個人の目標を決めてもらい、実習後に達成できたかをアンケートにて確認しているとのことだった。2 年生では、歯科専門体験実習として、盛岡歯科医師会に協力して頂き、2 日間市内開業医・2日学内の専門外来（1 日予備実習）を行っているとのことだった。3 年生では先端歯科医学・医療施設見学実習として、サイクロトロンセンター・高磁場MRI 研究施設見学も行っている。5 年生では、介護体験実習と地域医療体験実習を行っている。介護体験実習では、15 施設で 2 日間、1 年生の学生とともに実習し、1 年生の指導的役割を担ってもらっているとのこと。実習の前には口腔ケアの練習を行ってから参加しているとのお話であった。また地域医療体験実習では岩手県内 13 ヵ所の国保診療所・秋田県厚生連歯科 1 か所において1～2日間実習を行っている（沿岸の被災した診療所の派遣は現在停止している）。有意義だったという学生がいる一方で、有意義ではないと答える学生もおり、施設での指導内容のばらつきがある可能性があるとの報告であった。1 年生から 5 年生まで各学年に応じた実習が行われており、非常に魅力的な実習内容であると感じた。

昭和大学の地域連携歯科医療実施状況について、弘中先生より報告があった。昭和大学では社会と歯科医療・チーム医療コースにて、1年生では学部連携 PBL・歯科医院実習、2 年生では高齢者期と歯科医療として高齢者福祉の実習として、施設へ実習。3年生では近隣歯科医師会協力のもとで実習（5 年生でも同一施設）。4 年生は学部連携 PBL を実施し、5 年生では学部連携病棟実習として他学部と同じ期間・施設にて 1 週間実習を行っており、6 年生の実習は選択性を採用しているとのことだった。その中で、今回は1年生で行われている地域連携歯科医療の様子をビデオで説明して頂いた。富士吉田市の歯科医師会協力のもと、各施設での実習を行っているとの説明があった。ビデオを通じで、実習内容が理解できたこともちろんのこと、実習を行っている学生の緊張感も伝わり、実習内容が非常に分かりやすい報告であった。

3 大学ともに各学年の現状に沿った実習が行われており、実習説明で用いられた写真や動画に登場する学生たちも一生懸命実習に取り組んでいる姿が印象的で、非常に有意義な実習が行われていることが理解できた。